

溝小だよ！

<https://mizonobe-kahoku.edumap.jp/>

河北町立溝延小学校

学校通信 No.363

2023.11.30

発行：校長 小林 聡

学校教育目標： ふるさとだいすき かしく つよく やさしく
～つながりの中で わたしたちが創る 楽しい学校～

新たな挑戦と 創造する楽しさ

前号でお知らせした「溝小チャレンジ」の後、6年生は活動をふり返り、話し合いました。班員同士のつながりや下級生の満足した様子等について話し合ううちに、「みんなが仲良くなれるように、また同じような活動ができないだろうか。」「仲間と一緒にゲームを楽しみながら、さらに仲良くなれたらいいな。」という意見が出されました。内容や時間に検討を加え、今月16日（木）ロング昼休みの時間を利用して「ミニ溝小チャレンジ」（ゲームを6種類から4種類に/45分間から25分間に縮小）が開催されました。より多くの人と仲良くなろうというねらいで、新たなメンバーと取り組んだ「ミニ溝小チャレンジ」は、本家「溝小チャレンジ」の時と同じくらい笑顔いっぱいの楽しい時間となりました。目的をはっきりさせて計画を立て、しっかり準備することで、当初の予定にはないことでも実現できるんだということを子ども達は実感しました。



5年生は、田植えから稲刈り、脱穀等の体験を通して育てた米の加工ができないかと考え、学区内にある工場に協力いただきながら、初めての「おかゆの缶詰」作りと販売を行いました。4年生は、学習フェスタでミュージカルに挑戦しました。台本から台詞、替え歌まですべて自分たちで作り、何度も話し合いと練習を重ねた伸びやかで元気な発表は、感動的でした。3年生は春から今も冬の野菜作りに取り組んでいるオーガニック野菜の栽培、調理、採取した種の配布を通して、SDGsにもつながる有機栽培の良さを体感しています。2年生は、昨年の2年生が演じた「お手紙（がまくんとかえるくん）」の劇をやりたいと担任に相談し、選曲や題名まで自分たちでアイディアを出し合った音楽パーティを楽しみながら発表しました。1年生は、大量のアサガオのつるを使った巨大リース作りにたのしみ挑戦中です。



一昨年に取り組み始めた「かわらなでしこ復活プロジェクト」もいよいよ終盤です。歴代PTAの方々のご協力を得て、正門北側の砂利の一部を花壇にしました。校歌と校章にも使われ、大事にされてきた「かわらなでしこ」100株を全校生で植え、次の世代に引き継いでいこうと6年生が考えました。「撫でるほどかわいい」が語源の「かわらなでしこ」が、来年、そのかわいらしい花をどんなふうに咲かせてくれるのか、今から本当に楽しみです。

自分達で実現したいことを話し合い、その実現に向けて試行錯誤をくり返しながら、新たなことに挑戦すること、よりよい学校生活を創ることは、子ども達にとってこの上なく楽しいことだと思います。そして、その経験がやがてよりよい世の中を創る担い手になった時の大きな財産になるのだと思います。そういう機会をつくり、それらの経験を保障することが学校の大事な役目と心得ています。



本校ホームページへ
こちらからどうぞ